

1 【活動の趣旨】

創立136年の歴史がある本校は、駅周辺の開発が進み、新しく学区に住む住民が増えている。本取組により、子どもたちが身近な地域にたくさん触れ、ふるさとを愛し、豊かな人間性を身につけてほしいと願い、実践している。

2 【特徴的な活動内容】

○「老上まちづくりプロジェクト」

6年生の児童が、学校のすぐ近くにある老上まちづくりセンターの庭を、地域の方が憩える場所にしたという思いから学習がスタートした。まずは、庭の清掃や草むしりを行った。さらに、美しい庭にしたいという思いをもち、ベンチのペンキ塗りやクリスマスに向けて庭の飾り付けを行った。この庭には、かまどベンチがあることに気づき、災害時にも利用できるよう、かまどベンチを使って、みそ汁作りを行うことにした。まちづくりセンターや、老上ふれあい農業合校の皆さん、保護者の方に呼びかけて、温かいみそ汁を作ってふるまい、大変好評であった。



【まちづくりセンター
との共同作業】

3 【実施に当たっての工夫】

地域コーディネーターと各学年のスクールE S D部会担当者を中心に連絡調整を行いながら、学習計画を作成している。その際、学校での総合的な学習の展開方法やねらいなどを丁寧に伝えることで、学校と地域の取り組みが繋がるようにしている。また、老上ふれあい農業合校の畑には、年間の作業を掲示するホワイトボードが設置され、常に地域住民が確認できるようになっている。

4 【事業の成果】

- ・子どもたちが地域の方の生活の様子や考え方に触れ、地域のよさや学区への愛着を感じられるようになり、豊かな人間性を養うきっかけとなる取り組みとなっている。
- ・地域の方々と触れ合ったことがきっかけになり、家庭でも地域のことが話題に上がり、保護者の方々も地域について興味を持つきっかけを与える役割を果たしている。

5 【事業実施上の課題・今後の連携・協働活動実施に向けて】

総合的な学習の下準備として、綿密な打ち合わせ及び準備が必要になる。働き方改革が叫ばれる昨今の教育現場の状況を鑑みて、学校と地域それぞれの負担の軽減に取り組むことが必要である。また、長年地域学習にかかわる方々においては、高齢化の進行で事業の継続がより困難になってきている現状もあり、例年の通りの学習活動が今後も継続していけるかが課題になっている。